

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200627		
法人名	医療法人社団 小羊会		
事業所名	グループホーム横戸		
所在地	千葉県千葉市花見川区横戸町1123-4		
自己評価作成日	平成24年1月21日	評価結果市町村受理日	平成24年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成24年2月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者1人ひとりの現状にあった支援ができるように介護計画を立て、サービスを提供している。 ・入居者の生命または身体を保護する為、緊急やむおえない場合を除き、身体拘束、入居者の行動を制限しない介護に努めている。 ・医療・福祉・市町村との連携を図り、入居者がより良い多くの支援を受けれるように支援する。 ・入居者とその家族がよりよい関係を継続出来るように支援に努めている。 ・アットホームなホームで、入居者が毎日笑顔で安全に生活できるように努めている。 ・職員が常に向上心を持って介護できるように、研修に参加したり、話し合いをする事により情報の共を図り介護力アップを目指している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームの母体となる法人は、県内でも著名な透析専門クリニックであり、関東地域数カ所でもクリニックを運営している。認知症になり易い透析患者の為にと言う思いから、クリニックと同じ敷地に当ホームを設立したという経緯がある。治療を継続することにより、認知症状の改善と介護度数が改善されたという事例が多くあり、利用者・家族に感謝されている。運営推進会議は本年度は4回開催されたが、毎回多くの家族の出席があった。管理者を始めとする全職員がアットホームなホームづくりに努力しており、又利用者が毎日笑顔で安全に生活できるようにとの思いと行動が、ホーム全体を明るく元気な雰囲気になっている。スタッフ同士のまとまりもよく、その職場風土が家族とのコミュニケーションの深まりに繋がっていると思われる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次ステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自信を持って感情豊かに暮らせるよう」「体力の低下を補いつつ持っている力を存分に発揮できるよう」「地域の一住民として社会参加ができるよう」という4項目の理念を掲げている。職員で共有し支援を行っている。	「利用者一人ひとりが自信を持って感情豊かに暮らせるよう援助します」等4つの理念を掲げている。管理者はその実現のために、職員とは全体・個別の機会を問わず、とことん話し合いを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には未加入だが、近隣の農家の方と交流もあり野菜を買ったりしている。近隣にあるお店に買い物をしにいたりしている	自治会には未加入だが、地主さん、近所の農家の方の支援をいただき、地域に愛されるホームになるよう努力している。近隣にあるお店は散歩コースになったり、買い物に行ったり、とても便利である。	自治会の加入には、土地柄難しい面があると聞かすが、防災面などで地域の協力は欠かせない。更に努力されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外の看板に介護相談の受け入れを掲示している実際に介護保険・グループホームの説明等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご家族の方の意見・要望を聞いたり外出の際のお手伝いをお願いしている。また、運営推進会議を敬老会・クリスマス会等に日にちを当て行事にも参加して頂いている。	本年度は4回運営推進会議を開催した。毎回、多くの家族の参加があり、様々な意見を伺っている。新年度は偶数月ごとに開催を予定し、更に家族との絆を深めたい計画である。イベントと会議の同日開催なども工夫し、交流を深めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	引き続き、今年も介護相談員の受け入れをしアドバイスを受けている。また、グループホーム連絡会にも加入し市との意見交換会や集団指導にも必ず参加している。	今年も介護相談員の受け入れをし、アドバイスを頂いている。又、千葉市グループホーム連絡会に加入し、市との意見交換会や集団指導にも必ず参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、正しく理解する為に法人内での勉強会にも“身体拘束”について取り上げ勉強を行っている。また、市で行っている身体拘束の研修にも参加するようにしている。場所によってはカギが閉まっているが入居者自身で開けられるようになっている。	身体拘束については「拘束はしない」とする理念に沿って運営しているが、職員の意識が一番重要であり、法人内研修会で力を入れて、取り上げるようにしている。場所によってはカギが閉まっているが利用者自身で開けられるようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会にて、虐待について取り上げ勉強会を行っている。また、入浴中にて、ボーディーチェックは小さなアザも注意し確認するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次ステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会は少ないが、オムツ給付等の申請を行い利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時は、ご家族の方と納得いくまで説明を行い理解を得て行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者・ご家族とのコミュニケーションを日々大切にしている。日々の生活から入居者の要望を感じ取るようにし、また、ご家族については、面会時や運営推進会議・カンファレンス時に意見をお伺いし運営に反映させていただいている。	利用者・家族とのコミュニケーションを日々大切にして運営を行っている。日々の生活から利用者の要望を感じ取るようにし、又家族については、面会時や運営推進会議・カンファレンス時に意見を伺い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1か月に1回ある、全体会議や分科会・カンファレンスや1日2回ある申し送りにて意見交換を行っている。	毎月の全体会議や分科会・カンファレンスの場を通じて、意見交換をしている。管理者自らが何でも言い易い、相談しやすい風土をつくり、コミュニケーションの深まりに配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与・昇給時に必ず自己評価表を記入し提出してもらっている。その自己評価表を使用し個人面接もおこなっている。また、去年の反省をし今年目標を掲げ向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年はスタッフの人数が足りず研修の参加が思うように参加できなかった。現在は、スタッフの人数も揃った為、法人外の研修も積極的に参加していくようにしたい。自分自身のスキルアップの為ケアマネ・介護福祉士の試験に臨むスタッフはいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	引き続きグループホーム連絡会には入っている。連絡会が開催する時には参加し他事業所との交流に努めている。また、他事業所と入居希望者の紹介等も行い情報交換も行うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次ステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご自宅に面接に行きご本人の要望等をお伺いしている。また、ホーム見学もして頂き少しでも不安を取り除けるようにお話をお伺いしている。ご家族、ケアマネ、ソーシャルワーカーにも情報を頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面接にて、ご家族の困っていた事、不安な事等をお伺いしサービスの支援について話し合いをしている。また、相談しやすい環境を作ると共に信頼関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時必要なサービスを見極め対応に努めている。ご家族にもご相談し行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を築き、入居者個々のできる事・できない事を見極めできる事を一緒に行い暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時には、ご家族の力がなければ、良い介護に結びつかない事をお話し、運営推進会議・外出時・行事などの参加をお願いしている。また、現在のご本人の身体の状態を知って頂く為にも病院の受診もお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時には、馴染みのある物も一緒に持って来て頂くようにしている。また、面会しやすいホームの雰囲気作りも心がけている。また、年賀状をお友達や親戚の方に送るよう支援もしている。	入居時には、馴染みのある物も一緒に持って来て頂くようにしている。また、面会しやすいホームの雰囲気作りも心がけている。また、年賀状をお友達や親戚の方に送るよう支援もしている。家族には「会いに来て」と声かけをすることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人入居者の性格等を把握し、時には、入居者同士の架け橋になり良い関係が築けるような支援にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次ステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居してしまわれた方のご家族にも、何かあればご相談にのる事を告げ相談にもっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	支援の中で感じ取った事や会話の中で得た情報を共有しカンファレンスを行い本人の希望に添った支援をするように努めている。困難な方の場合は、その方が何を望んでいるのか、どのような支援をすれば良い生活ができるかを考え支援している。	利用者の日々の顔の表情を大切にケアに臨んでいる。思いの把握が難しい方には、まず自分や自分の親に置き換えて考えるよう指導している。カンファレンスでは話し合いを重ね、思いを共有できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時前に、ご家族やご本人にお話しをお伺いし面接記録にまとめている。また、作成した生活史用紙をご家族にお渡しし、生活歴や暮らし方・趣味等を記入して頂き生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・ご本人の1日の行動・言動をありのままに記入した個人ケース記録・伝達事項・バイタルチェック表・排泄チェック表・水分摂取表・スタッフ同士の情報交換ノート等により、1人1人の過ごし方、心身状態の共有と把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回行っている分科会で、入居者それぞれの方支援について話し合いの場を持っている。また、必要に応じてその都度カンファレンスを行い、介護計画を作成している。	アセスメントから職員全員が関わり、カンファレンスに臨んでいる。介護計画には今できている事が継続できるような支援目標を設定し、モニタリングを計画担当者が行っている。家族にも介護計画を説明し了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケース記録に実践した事や結果も記入している、またスタッフ同士の情報交換ノートに気付いた事を記載しスタッフ同士で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	支援もマンネリ化しないようスタッフ間で話し合い新しいケア(リエクレーション)を考え取り組んでいる。柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次ステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市・包括に地域資源について伺い、豊かな暮らしを楽しむ事ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からかかりつけ医のある方は、それまで通りの病院に受診していただいている。その方の症状によりスタッフも病院同行しホームでの様子症状を伝えている。	以前からのかかりつけ医への受診は家族が同行しているが受診後の記録や情報は職員も共有している。普段の様子を伝えやすいように受診時に職員が付き添うことも有り、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師による健康チェックを行っている。健康チェック後、看護師より助言・指示をもらい支援を行っている。日常生活の中で気がかりな事も相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、ご家族と一緒に主治医より症状説明を受けている。入院中、ソーシャルワーカーとの情報交換や相談を行っている。また、退院後にも必要な時には病院に連絡し病状の相談をし助言を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、事業所でできる事・看取りに関する指針について、話し合いの場を設け説明をしている。	重度化や看取りについては契約時に本人・家族の意向を聞くと共にホームの指針を説明し了解を得ている。かかりつけ医とも連携を取りながら職員も研修に臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアル・救急マニュアルを作り見える所に貼りだしている。定期的に全体会議で見直しをしたり再度確認しあっている。また、法人内での勉強会において、消防署の方を招いて心肺蘇生法等の対応の実習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜を想定した避難訓練を行っている。災害時には、隣接するクリニックや商店・住民の方にも支援体制の依頼をお願いしている。	ホームは平屋で庭も広く、想定される火元によって避難場所を変え消防署立ち合いで避難訓練を行っている。今年2月にスプリンクラー設置の工事が行われ、その後に避難訓練も予定されている。近隣の商店や住民との協力体制も出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次ステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりに合った言葉かけを心がけている。声のトーン・声の大きさ・方言などにも注意し誇りやプライバシーを損ねないように配慮しおこなっている。	年長者として人格を尊重し、できることは見守り、支援が必要な時にはさりげない言葉掛けや対応を心掛けている。個人情報の管理はルールに従い職員に徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	聴く姿勢・受け止める姿勢を持ち、ご本人が自己決定出来るように導き出す支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切に支援するように心がけている。食事を遅らせたり、その方の体調等にも配慮し希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回美容室を頼み来設していただき、パーマや髪を染めおしゃれを楽しんでいる。また、外出時には、スタッフと一緒に洋服を選び、おしゃれをし外出をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月2回以上、入居者の方からリクエストを聞き、リクエストに添った食事を提供している。また、温かい食事を提供する為にも時間配分にも気を付けている。お米もホームにて精米をしている、入居者の方よりお米がお美味しいと好評である。	月に2回は利用者の希望を聞き寿司やファミレスの外食に出掛けたり、出前を取ったりして楽しんでいる。利用者には食べて、飲んで元気の基本と考え普段の食事でも旬の食材を取り入れ、調理、配膳、片付けにも参加し食事時間を楽しいものにしていく。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士がメニューを作成した物を召し上がっていただいている。また、水分チェックや食事チェックも行い1人1人に合った量を確保し支援もしている。好みの物や嫌いな物も把握し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促したり行っている。また、月1回訪問歯科にて、必要な方には口腔ケアを行っていただいている。また、スタッフにも口腔ケアの掃除の仕方の指導もして下さっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次ステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し、その方の排泄パターンを把握し、1人1人に合った支援を行い、トイレでの排泄ができるようにすると共に、リハビリパンツから布のパンツへの変更も多く行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握することで、時間を見計らっての誘導や声掛けを行い、リハパンから布パンツに替わった利用者も多い。夜間も手引き誘導でトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼りっきりになるのではなく、食物繊維の多い食物、果物、乳製品を積極的に摂るよう提供している。また、マッサージ師による、腸のマッサージも行って頂くこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴したい方には毎日入って頂き、寝る前に入浴される方もいる。また、季節に合わせて柚子や菖蒲を入れたり、色々な種類入浴剤を用意し楽しんで頂けるようにしている。	利用者の楽しみである入浴は、季節行事の柚子湯、菖蒲湯の他、いろいろな入浴剤の使用で楽しんでいる。時間も利用者の希望に合わせて、ゆっくりとくつろげるよう支援している。入浴を拒む方にはチームプレイで声掛けのタイミングを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	親しんだ家具を持ってきて頂く事により、安心感を持っていただいている。また、必ず週1回のリネン交換(必要な時)を行い天気の良い日には、布団も干し常に綺麗なリネンで気持ち良く寝れるようにしている。冬には、布団の中に湯たんぽを入れ温かくしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人のお薬ファイルを作成し、情報が分かりやすいようにしている。また、誤薬がないように配薬箱を工夫したり、服薬時にはスタッフ同士で、氏名・日にち・薬の数の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月、行事を行い楽しめる場作りし、季節の食べ物を提供したり外食にも出かけるように支援している。また、家事の好きな方には家事仕事をしていただき、畑仕事が好きな方には、作物・花を育て頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物にも一緒にと出かける支援を行っている。また、1年に1回は、ご家族もお誘いし少し遠くまで遊びに行く機会も作っている。また、体力的に長く外出のできない方には、広い庭で日光浴をしていただいたり、庭でお茶を飲んだりくつろぐ時間も作っている。	日常の散歩では買い物を兼ねて向かいの道の駅に出掛けているが、歩行が難しい方は車椅子を利用している。ホームの広い庭でお茶を戴いたり、プランターで野菜も育てている。又年一回は家族も参加し日帰りバス旅行も企画し好評を得ている。一人ひとりが外出を楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次ステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理のできる方には、少額の金額を持って頂き。買い物時の支払いやホームに置いてある公衆電話の利用の際にご自分で支払をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームに置いてある公衆電話を使用し自由に電話が掛けられるようになっている。また、暑中見舞い・年賀状も送るよう支援している。書けない方には、スタッフがお手伝いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂以外にも入居者が気軽に憩えるようにソファを置いたり畳みのある空間もある。また、天気の良い日にはウッドデッキや庭のベンチにて日光浴をしたり、お茶を飲んだり、入居者同士が楽しんで話せる空間作りもしている。	食堂の横には畳に掘炬燵のスペースもあり、いつもそこで食事をする利用者もいて落ち着ける雰囲気がある。庭に続くウッドデッキへの出入りは自由で、外気浴も楽しめる。食堂にはソファも置かれ食後はくつろいで過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の部屋だと分かるように、居室には表札を付けたり、暖簾をご用意して頂いたりしている。また、トイレの場所も分かりやすいように表札をつけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた馴染みのある家具・布団・枕等を持ってきていただいたり、好きな物を置いていただいている。また、入居時にご家族、ご本人と相談し居心地の良い居室作りをしている。	利用者の馴染みの物や使い慣れた家具を持ち込み本人・家族と相談しながら落ち着いて過ごせるよう工夫している。毎朝利用者と一緒に掃除を行い、リネン交換は週一回行っている。天気の良い日には布団も干している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること・分かる事を活かし、安全を配慮し家事仕事、庭の畑・花の世話仕事を行っていただいている。		